

「竜門小学校の龍門司焼伝承活動の取組」

1. 学校名	始良市立竜門小学校
2. 学年・人数	5年生 9人
3. 日時・場所	・ 令和6年6月3日 見学（次郎太窯） ・ 令和6年6月10日 見学（龍門司焼企業組合） ・ 令和6年7月8日 ろくろ体験（龍門司焼企業組合） ・ 令和6年11月12日 「陶器祭り」展示準備（龍門司焼企業組合） ・ 令和6年11月26日 窯焚き体験（龍門司焼企業組合）
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	市指定無形文化財 龍門司焼（りゅうもんじやき） 16世紀末に17代島津家当主、島津義弘公が朝鮮陶工を伴って始まった「薩摩焼」。龍門司焼は、渡来陶工である、芳珍の孫、山元碗右衛門が桜島を南に望む加治木で良質な原料を発見し、1688年窯を築いたことから始まる。その技法は集落の人々に伝来し、窯の周辺はいつしか「茶碗屋集落」と呼ばれ、地域で脈々と受け継がれるようになった。開窯以来、300余年、龍門司焼は薩摩焼5系統の一つとなっている。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	・ 龍門司焼について事前に調べたことを基に、龍門司焼企業組合、次郎太窯に見学に行き、龍門司焼のよさや製造工程や原材料へのこだわり、歴史などについて知ることができた。 ・ 実際のろくろ体験をすることで、龍門司焼について、より理解を深めることができた。 ・ 12月に行われる龍門司焼陶器祭りに来た人々に龍門司焼のすばらしさを知ってもらおうという相手意識と目的意識をもたせ、調べたことを壁新聞にまとめさせ、実際に貼りに行った。
6. 取組の様子（練習状況、発表の場等）	  龍門司焼窯焚き体験 龍門司焼「窯元祭り」にて
7. 感想・意見（参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	【児童】 ・ 龍門司焼のことを調べたら、登り窯の秘密や釉薬作りのことが分かりました。 ・ 職人さんがお皿を作っているところを見たときには、難しそうだと思いました。私もお皿を作ってみて、難しかったけど、職人さんに教えてもらったら上手にできました。初めてろくろを使って作ったので楽しかったです。 ・ 新聞を貼りに龍門司焼企業組合に行った。自分たちが作った皿は、思った以上によくできていました。新聞をみんなで展示したので、お客さんにたくさん読んでほしいです。